

財務書類 4 表の概要

【 貸借対照表 】

貸借対照表とは、自治体が住民サービスを提供するために保有している財産（資産）と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを総括的に対照表示した一覧表です。また、資産合計額と負債・純資産合計額が一致し、左右がバランスしている表であることからバランスシートとも呼ばれています。

「貸借対照表の概略図」

借 方	貸 方
<p style="text-align: center;">資 産</p> <p>【資産とは、行政サービスの中で形成された財産です。】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 公共資産（土地、建物、道路等）・ 投資等（投資及び出資金、貸付金、基金等）・ 流動資産（現金預金、未収金等）	<p style="text-align: center;">負 債</p> <p>【負債とは、簡単に言えば借金（地方債等）です。】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 固定負債（1年以上の期間をおいて返す借金）・ 流動負債（1年以内に返さねばならない借金）
	<p style="text-align: center;">純資産</p> <p>【国・県の負担及び今までの世代が負担した部分です。】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 公共資産等整備国県補助金等（公共資産整備のためにもらった国県補助金）・ 公共資産等整備一般財源等（公共資産形成のために充てた一般財源）・ その他一般財源（公共資産の形成以外に充てた一般財源）・ 資産評価差額（資産の再評価等により生ずる資産差額）

【 行政コスト計算書 】

行政コスト計算書とは、1年間の行政活動の人的サービスや給付サービスなど資産形成に結びつかない行政サービスにかかる経費と、その行政サービスの直接の対価として得られた財源（使用料・手数料・分担金・負担金・寄附金）を対比させた財務書類です。

【 純資産変動計算書 】

純資産変動計算書とは、貸借対照表の純資産の部に計上されている各数値が1年間でどのように変動したかを表している計算書です。純資産の部は今までの世代が負担してきた部分ですので、1年間で今までの世代が負担してきた部分が増えたのか減ったのかがわかります。

【 資金収支計算書 】

資金収支計算書とは、歳計現金(=資金)の出入りの情報を性質の異なる3つの区分(「経常収支の部」、「公共資産整備収支の部」、「投資・財務的収支の部」)に分けて表示した財務書類です。

「経常収支の部」には、人件費・物件費などの支出と税金や手数料などの収入が計上されており、日常の行政活動による資金収支の状況が表示されています。

「公共資産整備収支の部」では、公共資産整備などによる支出とその財源である補助金・借金などによる収入が計上されており、いわゆる公共事業に伴う資金の使途とその財源の状況が表示されます。

「投資・財務的収支の部」には、出資、貸付、基金の積立、地方債の償還などによる支出とその財源である補助金、借金、貸付金元金の回収などの収入が計上されており、投資活動や財務活動による資金の出入りの状況が表示されます。